

中齋塾東京フォーラム  
平成 31 年度 第 1 回講話

平成 31 年 1 月 12 日  
於 湯島聖堂

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。新しい委嘱状を岡本理事長から渡していただき、新体制がいよいよ始まったなということを今しみじみ感じております。まず、干支については皆さんのお手元にある季刊誌『知足』今年の新年号の中に癸亥（きがい・つちのとい）について書いてございますので、どうぞお読みになってください。

昨日、湯島の聖堂に『陽明学のすすめⅦ 人間学講話 佐藤一斎』が届いたそうです。1月 24 日出版ですので、八重洲ブックセンターや丸善に置いていただくことになります。明後日は湯島聖堂で話をさせていただきます。それに合わせて人数分ぐらいを明德出版が印刷してくれました。それは間に合いました。できれば皆様にと申しますけれど、なかなか行き渡りませんで、すみません。明後日お出でになる方は、どうぞそこでお買い求めいただくのと有難い。

《論語の視点》衛霊公 第十五

【三二】子曰く、知 之に及べども、仁 之を守る能わざれば、之を得と 雖も必ず之を失う。知 之に及び、仁 能く之を守れども、莊 以て之に泄まざれば、則ち民敬せず。知 之に及び、仁 能く之を守り、莊 以て之に泄めども、之を動かすに礼を以てせざれば、未だ善からざるなり。

今日の論語素読を解説して頂くというのはとても良いですね。今回の論語は、本日にふさわしい内容だと思って、ずっと一緒に聴講させていただいておりました。「子曰く、知之に及べども、仁 之を守る能わざれば」どうぞ御自分に置き換えて考えていただいて、なおかつ「之」はポストの意味です。

理事長職というのは「子曰く、知之に及べども」の「之」が理事長職だと思います。栗林さんは、先程お読みになった後で副代表幹事職を頑張りますと言いました。これはこう考えていただくとよいと思うので、御紹介します。「人は会うべき時に、会うべき人に会える」ちょっと変えます。「人が就くべきポストに、就くべき時期に就く」とお考えいただく

と、それを最大限に活用しようということになると思います。

大野さんが一帯一路に関する動き進めておられて、何々のポストに就かれた。そのポストに就かれたことはもう天命の然るべきところであろうと感じます。とつても若返ってきています。天命を自覚して新しいポストに就いたときは、何かとつても若返るものだと思います。

昨日、久しぶりに冷や汗をかきました。良い経験したなと思いました。内容は佐藤一斎の玄孫で、深尾凱子（ときこ）さんという方がいます。その方に前から、湯島聖堂の平事務局長がお会いになったほうがいいですよと言われて、時間を取っていただいて会いました。お会いしたら石川忠久先生の同級生で 86 歳。場所は日本記者クラブでした。普通に挨拶して話し始めたら、深尾凱子さんは二松学舎の疋田先生と『致知』という雑誌で対談したのですが、その対談記事を贈っていただき、さらっと見たのですが、こちらに来るときに電車の中で、しっかり読もうと思ってその部分だけコピーして持ってきたつもりが、表題だけあって中身がそっくり無かった。だから読めないままで、お会いしたら開口一番、「お贈りした雑誌の対談記事はお読みになっていただけましたか」と言われて、目は通しましたから、「目は通させていただきました」といったら、私の書いたこういう部分はどう思われますかみたいな感じでぼんぼんくるから、しどろもどろになって一所懸命に頭の中で思い出しながら話しましたが、そうしたら最後に「何かお話がとんちんかんでしたけど」って言うから、そらそうだと思う、実は電車の中でしっかり読もうと思っていて、1 回目は間違いなく目は通したのですが、ほとんど覚えておりませんで、表題の深尾凱子さんの経歴と疋田先生の経歴の書いた表題だけが挟んであったのでそれだけ眺めていました。最後に言ったからよくなかったな。まさかそういうペースでくるとは思わなかったの、雑誌の中に書いてあったもので思い出したのが 2 つありまして、1 つは石川忠久先生と同級生だったので、忠久先生にお会いしなきゃと思ったこと。御本人は東京大学英文科を卒業して読売新聞社に入り、休職してアメリカの大学へ行き勉強して帰ってきたから頭の中は英語で、漢文は全然およびでなかった。色々なものが一段落終わったところで、自分の家系を調べだしたら佐藤一斎のものがいっぱいあって『言志録』を読み始めました。そうすると忠久先生が湯島聖堂のトップだというのが分かって聖堂に来たけれども、今まで一度もここに来たことはなかった。御茶ノ水駅前からバスに乗って東大に通っていたが、一度も来たことがなかったということが頭に残っていたので、この話をしました。

最後は佐藤一斎の故郷が岩村でして、会長で鈴木隆一という先生がおられます。その先生に 3 ヶ月前お会いしたときには、小泉純一郎さんが『言志四録』の「三学戒」を述べて知名度が上がりましたが、最後の部分「老いて学べば即ち死して朽ちず」を観光客に聞かれるとき答えに困ると鈴木先生が言っておられた。私はそれを聞いて、書いた物を残せば良いのだと思いました。自伝を書けば自伝で残るし、自分の子供たちに家訓を残したければ家訓だし。何か書いて残せば、自分が死んだ後も文字は残ると、本人が残っています。

一斎も特に最後は『言志録』を書いたという内容の言葉があるので、そのまま使えばい

いじゃないかと思っていたのです。そしたら、そういうことをその雑誌の対談の中で残していましたから、あれは良いですねと言いました。少なくとも学者の方が書いておられる本の中を読んだ限りでは、「老いて学べば即ち死して朽ちず」の解釈は非常に難解で哲学の分野だから、佐藤一斎の哲学論をしっかりと調べてからでなければ、あれは論評できないようなものがいっぱいある。そういう話を深尾凱子さんに話しましたが、だから学者って困るんですねと。あれが一斎の日常生活の中から出てきたごく普通の素直な言葉で、私はあれが好きですよって言います。玄孫、子孫の考え方として非常に良いなと思いましたので、これはいただきますというような会話をさせていただきました。

そんなことが昨日ございまして、冷や汗ってあんまりかいたことないけれど本当に汗って出ますね。

それでここの「子曰く、知之に及べども」で、岡本理事長で合わせてみると、孔子が岡本さんに言うには、新しい理事長職に就いて、その理事長職を全うしようと思っても、知識だけじゃ駄目だよ。あなたは他の人より知識がとて多いいけれど、それだけでは駄目だと。さっき御自分が言ったとおりに置き換えればいいですね。「仁之を守る能わざれば」一所懸命に努力して思いやり気配りをしているけれど、これはこれで良いことだが、思いやりはもっとやったほうが良い。思いやりをもって相手の話を聞く。岡本理事長を題材にしていますけれども、どうぞ御自分のポストに照らし合わせてお考えください。

「之を得と雖も必ず之を失う」思いやりがなければ之を得と雖も必ず之を失う。これはそのとおりです。大金持ちになった女性が最近ニュースに出ていました。離婚をして亭主の財産を半分貰った。その亭主のお金が減ったので、ビル・ゲイツがまた世界一の富豪に登場したとありました。岡本さんが理事長職をきちんと行う場合、もしも思いやりが欠けていたら、会社の役職、理事長職、家庭の円満、全て得ていても何かのきっかけで全てを失うから氣をつけなさい。思いやりはそういうことのようにございます。全部自分にふりかかってくる言葉です。それから「知之に及び」知識はそれに相応しい知識を持った。「仁能く之を守れども」思いやりも一生懸命努力して守るけれども、「莊以て之に泄まざれば」厳格に自分の態度を自分でしっかり引き締めて、そのポストに望まなければ、「則ち民敬せず」これはもうゴーンさんです。これはゴーン事件そのものです。これは岡本さんにいう訳にはいかんからゴーンさんで解説をいたします。ちょっとこれで脱線ですけどね。

ゴーン事件を新聞で読んでいますと、最初は虚偽記載で逮捕された。判断基準は本質・大局・歴史でいきます。そうすると日本の歴史で見ますと、こういう虚偽記載のときには、上場していますから、上場廃止。社長クビというのが、たいがい普通の流れです。ライブドアのとき、これは上場廃止です。西武だって似たようなものですね。なぜゴーン事件でその話が一切出ないのか、おかしいと思う。でも虚偽記載で逮捕して、拘留の延期もあって保釈の話になってきたら特別背任罪で逮捕。最初の頃は、私利私欲で色々なことをして、特にスワップだな。自分が損した損害を会社に付け替えた。会社に負わせたということで

特別背任罪だというのが新聞の論調です。ところがゴーンさんが、法廷で主張を展開すると、10日の新聞からは、会社に損害をかけたという表現ではなくて、損害を補償する義務が生じているという表現に義務がくっつきました。実損がでたものを、補填せねばならない義務が生じたので、それは法的に、特に裁判所で判断するときには、そういう義務が生じたときには、もうそれは損失を与えたというふうに解釈をする。普通感覚では泥棒した人が泥棒してごめんなさい。でも返したからいいよという。返したから損害与えてないじゃないかという論法。そこらへんが段々見えてきたら新聞の論調に義務という二文字が加わった。少なくともゴーンさんが反論するところで調べたら法的な見解は義務とつけなきゃまずいよとなって、文章が変わる。今回、私が注目したところです。

そうしますと、「**之を得と雖も必ず之を失う**」というのは、ここから先はありそうだなという話を申します。

アメリカが盗聴する能力は凄まじい。日本の盗聴能力は大したことではない。前に、ドイツのメルケルさんがアメリカに盗聴されていると言いきなりました。フランスの大統領の状況も盗聴しつかりして、内容がアメリカには筒抜けだった。本当かどうか知りませんが、それで内容は、日産という会社は蜜がたっぷり詰まっている会社なので、トランプさんは日産が欲しい。GMと繋げよう。前にそういう話が出ていましたが、相変わらずまだ燻ぶっている。トランプさんはアメリカで失業者救済を打ち上げたい。で、フランス政府を盗聴していたら、これはちょっと手を打っておかないといけないという盗聴の結果が出てきた。ゴーンさんが日本に帰って、日産とルノーと三菱を合併させる。これを取締役会開いて決議することに決めた。これはゴーンさんがルノーとトップであり続けることの密約のもとで進めた。同時に西川（さいかわ）社長のクビを切ることを明確に決めたので、日本にゴーンが到着をしたら直ちに行われる可能性がある。これはアメリカにとって、これから利益になる話が消えるから止めたほうがいい。止めるためには、ゴーンさんが日本に着いた時にはすかさず逮捕しないと、話が一気に進んでしまうということで日本政府に連絡が来た。慌てて日産の然るべき人間と連絡を取ったら、日産の中でもゴーンさんに対する調査を進めていたので、それと話がびったり結びついてしまった。それで司法取引はこうやりなさい、上場廃止の話で抑えなさい。それで最初のときは官房長官が出てきて、ゴーン事件についての論評みたいなことしました。ということで、西川さんは自分のクビが切られることが明確に決まっているから、すかさず動くことに同調した。という話が私としては信用をおいている方からの文書で流れてきましたが、本当かどうかは分からないけれども、あり得そうだなと思うことなので申しあげました。

やっとここで、「**必ず之を失う**」でいくと、ゴーンさんは最初の5年間はセブンイレブンと言われたそうです。朝7時には出社。夜11時までは会社、現場回りをする。日産の社員の人たちに、あなた方が主役だと、私は応援する立場にいる。そういうことを一所懸命やるから日産の社員はどんどんやる気になった。それで5工場を閉鎖し、2万1千人のリストラをして手を打っていった。3年間ぐらいでV字回復できるという会社の流れがあっただけ

ども、5年間は日産社員の方々の信頼をしっかりとって、理想的なことをしていったから皆もついてきた。利益も上がってくる。非常に良い。でも変わってしまった。最初の5年間は、知識は豊富で思いやりもある。理想も掲げる。数字をもってきちんとやる。態度も良かった。で、「**之を得たけれども**」そこですね。仁は私欲なしということがある。欲がべらぼうに出てきた。あれが欲しい、これも欲しいとやりだした。結果、社内の信用はなくなり、最後はクビを切られて追放されるという目にあった。6年目に入ってから信頼が落ちてきた。同じ人間でも、ひっくり返るんですよ。ゴーンさんが自分の書いた本の中で、経営者は引退の時期を間違えてはいけないとあります。私も氣をつけなきゃみたいなのが書いてある。最後にいろいろと失った理由に原因は私欲です。私欲というよりは強欲でしょうね。

「**之を動かすに礼を以てせざれば、未だ善からざるなり**」ここの説明はさっきの寄り添うという言葉が良いと思います。それをちょっと解説。イトーヨーカドーの創設者の伊藤さんが20年ぐらい前に本を書いています。その中で松下幸之助に会って、松下幸之助の解説をしています。イトーヨーカドーがセブンイレブンを始めて100店舗ぐらいになった時に、松下さんに「コンビニエンスストアを始めて100店舗ぐらいになったけども、この商売の行先はどうでしょう」と聞いて、ぼつんと松下幸之助さんが「100店舗じゃないね、1万店舗はいくよ」と言われて、これがとっても大きいエネルギーになったそうです。100店舗のときに1万店舗になるって言われたら、まるで考え方が変わった。またそれとは別に松下幸之助さんの話で、会社はつくってから始める頃が楽しい。300人ぐらいまでは社員の顔も分かるし、何を言ってもすぐ反映される。だから小規模の時は楽しい。中規模ぐらいになると、つまらない。自分の声が現場に通らない。管理者、監督者、そういう人を使って、間接的にやらざるを得ない。1千人から2千人ぐらいになると楽しくない。考えかたとして、最初は率先垂範でやるから楽しい。中ぐらいの規模になったら、頼みますよと頭を下げるようになる。それが大企業になると駄目。大企業になったら、もう自分のことは伝わらないと思う。神様に拜む感じで、お願いしますと頭を下げるしかなかった。これはもう悲しい。会社を大きくしたいと思うけれども、個人的には、最初は楽しい。次は頼みます。最後はお願いしますになる。それで日本という国は寄り添うというのが出てきます。寄り添うまでいけば、もう大したものじゃないですかね。大企業も寄り添うという言葉が出ればいだろうし、家庭の中でも、いろいろな組織の中でも寄り添うものがあれば良いかなと思います。ということで寄り添うという言葉も良いと思います。なかなか寄り添うところまでいかないです。それでここの「**之を動かすに礼を以てせざれば、未だ善からざるなり**」ここの文章は、新しいポストに就いたときに、しみじみよく考えてみればいいでしょう。ベースは寄り添うという良い言葉を岡本さんが言ってくれたので良かったなと思います。もう一つ最後、寄り添うというのを自分自身で見ます。私は自分の体、メンテナンスをやらなきゃいけないと思いますが、前は必ず1日1回、何分間と決めて守って行っていました。自転車の場合は、今月いっぱい3年目になりますが、最初の1年間は毎日

乗ると決めて、毎日乗っていた。ただ毎日乗れないときは、帰ってきた日に2日分だとか3日分だとか乗っていました。最初の1年目は毎日必ずやった。2年目はところどころ抜け始めます。今3年目になったら半分ぐらいになってしまった。今日は風が強く吹くから、今日は寒いからと、何かいろいろな理由があります。それでもはっと気がついて、やっぱり乗ります。今月は1月入って昨日まで乗り続けました。でも今日から1週間ずっと帰らないので1週間は乗れないから、その分を乗ろうと思い乗っていました。そういうことで、最近はどうでもよいという気になってきた。あるがまま。自分が乗りたいと思ったら乗る。ということで、あるがままがいいだろうと思う。共存共栄がいいだろうと思う。体がちょっと調子悪いなと思ったら、一病息災で、一つの病があれば気にしますから、全体的にはいいことだから一病息災って良いと思います。ある日突然ぱたっと逝くのも理想的な死にかただと思いますが、一病息災とって労わりながら天寿を全うするのも良いだろうと思います。

## 《テーマ》

### 「人生を深く考える」

中斎塾フォーラムの中では当然のことながら「足るを知る」という考えかたの時間を持ちましようと話します。すごく単純な言葉で「ほどほど」があります。すべて「ほどほど」という言葉で、仕事で詰めていく。代表幹事・副代表幹事で何かこれをして、あれをしたいと詰めていく。自分で考えたものをここまでやれば完璧だけど、そんなにできる訳ないな。ほどほどで止めよう。

ゴーン流でいきますと、日産のトップでいるときに、日産が順調にV字回復をした。その後、世界の自動車会社4社から来てくれないかと申し入れがあった。申し入れのときの役員報酬の額を細かくつけていた。それは日産から貰っていたお給料の役員報酬、公開している物以外で、これだけ貰えるはずだという数字を計算するときの根拠にしたが、日産はいつも少なかった。他所の4社は提示した金額が大きかった。これだけお金を積むから来てちょうだいといわれ、今いるところはこんなに少ない。どうしましようねっていうことを全て記録に残す人があるかいなと思うが、それが、逮捕されて日産に損害をかけていない。私は私欲が少ないっていう論証に使っていることのように。「ほどほど」にしとこうかなと思えば、そこまでいかなかった。今日と昨日の新聞で、三菱と日産とで合弁で作った会社から別途、日産に隠れて10億円弱の報酬を受け取っていたと、また知らないところからぼこっと出てきています。どこまでこの人は強欲なのと思います。世の中そういうのを見て、取りすぎだと思われる。だいたい自分でこれぐらいならいいかなと思ってちょっとやるでしょう。これぐらいでいいかなと思ってちょっとやると、世間はあの人は強欲だということになる。税務署とやりあうときは…税務署の話もついでに話します。

税務署はけしからんと私は思っています。ちょっと余分なこと言いましょうかね。ふるさと納税という仕組みがありますでしょう。あれは悪くないと思いますが、ちょっと出すぎたかな。あちこちの自治体が強欲になっちゃった。そしたら政府もよせばいいのに、貰ったお金の4割ぐらい返しちゃいけないとルールをこしらえた。皆それぞれ「ほどほど」にしとけばいいと思う。新聞に書いてあったのが、ふるさと納税で、小さな町がお返しはたっぷりするとやって、5日間で70億円集まった。自分がなんにも気にしないで住んでいる所の住民税はだまって取られていくわけですが、それをちょっと他の自治体にあげて、教育や福祉など使い道まで指定できる。あれは悪くない仕組みだと思いますが、政府は余計な干渉をしすぎていると思います。

今日の読売新聞トップ、保険567億円追加給付と書いてありますが、これは厚生労働省の毎月の勤労統計の調査手法が悪く、給与額の算定に誤りが出た。数字でいけば1973万人・30万事業所に対して567億5000万円の追加給付を発表した。これ2004年から10年以上こういうことが、統計上の誤りが続いているということだけでも、何でこんなはずと追っかけるのか。これはもう完全にお役所仕事。これを先程のイトーヨーカドーの社長の科白で良いなと思うのが、当社の社員と取引先の担当の人間が話をするとき、考えてみてください。取引先の方といろいろ話をするとき、もしも我が社の社員が腕組みしながら相手と商談したら、お取引先はどう考えるでしょうか。それから、膝を組んで腕組みして上から目線で商談したら、これはもう大企業病の始まりであると私は捉えているので、それは禁止ということです。自然とこうなる人いますよね。でもイトーヨーカドーの社長の目線は悪くないなと思いました。

生きていく上で、人生を深く考える癖を持った人は、いろいろな人の話を聞いて自分のものにする。書いた物を読んで自分のものにする。咀嚼して自分のものにしていく。それを繰り返していく、その姿を見ていると、また周りの人がそれにはっと思えば感化されていく。その繰り返しじゃないかと思うのです。基本哲学は「知足」知足と言ってもぴんとこないから「ほどほど」

ほどほどの哲学のほうが良いなという気がしています。

### 《紹介書籍》

『サトリー「悟り」とは、どんなことなんだろうー』無能唱元著 致知出版社

無能唱元さんの書いた本は、大きくて分厚く1万円ぐらいで売っている本もあります。今回、悟りについてもう一回見直しをしようと思って久しぶりに読んでみたら、この千円の本は良いことが書いてあります。

良いことが書いてあるのは、やっぱり人間はどっかで、私は何のために生まれたのだろう。人間の一生は何なんだろう。最近、考えること、とっても多いんです。それは、人間はというのではなくて。友人知人、親戚、あっ、あの人っていったら顔も分かるし、性格も分かるし、どういう人生を送ってきたか分かる。

例えば、私の母親が 97 歳で亡くなりました。亡くなった後で、親の人生は何だったのだろうか。昨日、詩吟の練習をしている時に 90 歳過ぎの叔母の具合が悪いという連絡をもらいました。それに対する答えとしては、母親が亡くなる時のことを話しました。母親は 97 歳の誕生日の時は元気でした。いろいろな話もできたし、ぴんぴんしていました。明らかに変わったなと思うのは、それから半年ぐらいして口から物が食べられなくなってから急に衰えました。その記憶をもとにして叔母の娘に話しました。口から物が入らなくなってきたといったら、すぐ連絡せい、すぐに行くからと。大体そうってから 3 ヶ月だと自分の実体験です。

人の一生っていうのは何なんだろう。それを思うのに、ここから先は非常に不遜な言葉でございますが、私の両親は私を生み育てた。良い一生ではなかったか。私と兄とを生みましたから。子供が大きくなって育つ。幸せな人生を送っているというのを見て亡くなっていったから、それでもって良しとすべきであると前は思っていました。

人の人生とは何か。やっぱり次々にバトンタッチしていくことだろうなと思います。今、結婚しない人が増えている。結婚していなくても、養子を貰って、養子に繋いでいけばいいじゃないかという気がします。

無能唱元さんの科白で、坊さんの頭の中でいう悟りは大脳の中枢部に、何ていう名前だったかな。麻薬のような物質があって、それが悟ったときに、大脳の中枢部から快楽物質が分泌されて、これはもう麻薬的なものだから、躍り上がって喜びたくなるような、身も体もよじれるような、そういう生命エネルギーが沸騰する体験をさせるのだそうです。それが悟りの今の解釈。それを般若の力と言いますと。でもあれは般若の知恵という言いかたをする。知識が変わって知恵になり、知恵が変わると般若の知恵になり、そういう仏教の説明がございませう。この般若の知恵までいったら、体中がもう沸き立ってきて、生きていて良かったっていう物が出てくるという。それは阿頼耶識と話が直結をしてきます。こういう話は天風先生の本の中に結構あります。私は無能唱元さんの講演会に行って、この方は生悟りという印象があったんです。余計なことですね。

悟りに関する話は、学者がびっしり漢字いっぱい入れている本は分かりにくい。ひらがなが多いほうが良い。さもなければ漢字にルビがふってあるほうが良い。大きい字が良い。行間が空いているほうが良い。値段が安いほうが良い。

その悟りで無能唱元さんは、人間の一生は、緊張と弛緩の連続ですと。ああ言い得て妙だなと思いました。緊張するというのは、商売のときもあるし、夫婦で喧嘩するときもあるし、また何か素晴らしい物を追及している。体中が緊張しているってことがあるでしょう。緊張するというのは、だいたい急にきます。自分が緊張したいと思って緊張するので

はなく精神的に緊張をする。だから昨日、私が冷や汗かいたのもそういうことです。他人から与えられるものです。人為的または自然災害かなんかで慌てることになると思うのです。ですから、緊張は他から与えられるもので、弛緩はリラックス。リラックスは自分が意識してリラックスしようと思うからリラックスできる。人間の一生は緊張とリラックスの繰り返し。あんまり緊張だけではいけないし、緩みっぱなしでもいけない。そうするとそういう話を続けていくと、阿頼耶識というものの考えかたが出てくる。

人の一生で、緊張と弛緩が続く中で、やっぱり楽しいことはあったほうが良い。リラックスも、ほっとするのは良いけど、緩んで楽しいことばかりどんどん追求するとどうなるか。ゴーンさんはお金あんなに稼いでどうするのかと思います。よく言う科白だけど、お金持ってあの世にいけない。食べ物だって、美味しいものいっぱい食べたらお腹いっぱいになって、次が食べられないです。それに食べ過ぎると肥満体になり、高脂血症や色々な病気になると思いますでしょう。

何やっても楽しいことが、いくつも散りばめられている 1 日だったら、とても良いことです。

## 《恒例の質問》

さあ新しい年になりました。まだ十数日ちょっとしか経っていませんけれども、どうでしょうか。

・良い日は続いていますか。－はい有難うございます。その良い日は楽しかったですかね。

・楽しい日々が続いた。－はい有難うございます。

木内先生は、楽しいのと嬉しいのと違うからねと。楽しいのは理性的で嬉しいのは、まあ動物的だねと。でも楽しいは良いですね。

・嘘をつかなかった方。－有難うございます。

リップサービスで嘘つくことはあります。でもそれは人徳があってね、北関東フォーラムの吉川さんという人がいますが、いつもニコニコしています。吉川さん、本当にいつもニコニコする努力をしていますか？…そうか、やっぱり努力している。努力がいるということを感じました。

・有難うと言ひ、有難うと言われたこと多かった。どうでしょう。

有難うと言われることもやっぱり努力がいる。でもこれは努力していると思っていると無理です。努力しようと思わないで、自然とこうなるのには、阿頼耶識という考えかた。種を蒔いておけば、自然とそうなるっていく。

・今年に入って健康法ずっと続けた。続けている。－はい有難うございます。

これ無意識で健康法を続けている方。－有難うございます。これが増えればいい。

さあ今日の健康法は、頑張ろうというよりは無意識のうちに健康法をやっているのが良いですね。この間、寒くてどうしようもなくガタガタ震えながら自転車に乗ったのです。寒いので呼吸法をよしやろうと思いやりました。私はいつも自転車に乗りながら詩吟をやります。でも、この間は寒くてしょうがないから、詩吟ひとつ終わってからは深呼吸を 5 回から 6 回やりました。そうすると体が温まってきます。30 分ですけど汗が吹き出しました。呼吸法はようございます。これは健康法をやろうと思ったのではなく、無意識のうちに寒いから健康法で呼吸法を実践した。役に立ちました。今日なにも体に良いことしてないな、もう寝るだけだと思ったら、横になったままでいいから、深呼吸すればいいですね。それは呼吸法で健康法は実践したということになります。

・今年に入って、意識的に自分磨きをしたかどうか。一有難うございます。自分磨きは一切何かって話になってきますが、事上磨錬という言葉があります。陽明学の中に出てきます。日常生活の中で、自分や周りを向上させることを意識して実践する。実践し続けていくと、はっと気がつく。自分の器が大きくなってくる。

・昨夜寝るときに、明日以降のことを過去形で思われた方はどうでしょう。一はい有難うございます。

干支の話最後にします。私の予定表に書いてありますが、毎月 1 日を災害対策の日と定めています。それで今年は元旦に災害対策。家の中の災害に対しては、こういう物があると書き出して表を作りました。それを皆様方にお話をしていこうと思います。

今年は癸亥（きがい・つちのとい）これは爆発の年ということで年賀状に書きました。夜、寝る時に大地震が来たということを想定して、靴をベッドに括りつけておく。私は枕元に靴は置いてありますが、縦揺れとか横揺れで靴がぼーんと飛び上がったならガラスの中を、裸足やスリッパで歩かなきゃならない。だから足を痛めないように靴をベッドもしくは布団の下だとか、飛ばないようにして傍に靴を置く。もう一歩進めれば、何かあったときにすぐ外に出られるときの準備をしておく。常に枕元にリュックの準備をしておいて置く。それから疎開先を明確にしておく。疎開先に出掛けて、今年は疎開の可能性があるから頼むということで、実際に出掛けて相手と話をする。これが必要だと思っています。これは自然災害に向けてのものです。

癸亥は「爆発」とんでもないことが起きると思います。とんでもないことが起きたときのために、準備はしなければいけない。これは今年の仕事だと思います。それからもう一つは経済的なもの。経済面でいくと、今年の暮れは大きな景気の変動があつて落ちる。仮に落ちなくても、来年早々には起きると思っています。それが起きなければ、オリンピックが終わった直後は、もう落ちていくに決まっている。オリンピック直後に落ちるものが前倒しでくる可能性があります。

私そんなお金持っていないからいいですよという人がいますが、自分がそれで死んだら、

あとの家族が困るんじゃないのと思います。それだったら保険でも掛けといて受取はドル払いで貰うようにしておくとか、経済上の大変動の起きる危険性が、今年の後半から特に高まると思うので、そういう準備を具体的にしておく必要がある。

私はこの間、色々な保険の話を見学してこれが良い、あれが良いと全部細かく分けてくれるようなものを来てもらって話を聞きました。

経済変動に対する対処をしていく必要がある。今までこれから起きるかも、起きるかもと言いつけているけれども、今年は癸亥ですから、経済上の準備、それから自然災害の準備を今月からスタートさせていただければよいと思います。

どうぞ今年 1 年間、良い年でありますように。良い年でありますようにというのは、自分で良くしなければ良くなりませんから、どうぞ良い年でありますようにということで、以上でございます。有難うございました。